

平成 2 9 年度

施設会計事業報告

## 平成29年度施設会計（こがね保育園）事業報告

### 1. 運営方針

平成27年度始まった子ども・子育て新制度は、待機児童解消に向けて、国全体の懸案事項である保育所・保育士不足解消に向けた施策として職員処遇改善等に反映されたが、平成29年度は、処遇改善Ⅱとしてキャリアアップ体系が実施され、苦慮しながらも働くことへ生甲斐を感じられるような職場作りを心がけた。

また、当園の保育理念『子ども一人ひとりを大切に、保護者からも信頼され、地域に愛される保育園を目指す』を念頭に、児童福祉法の精神に則り保育に当たってきたところである。職員相互による連携の徹底を図りながら、保育目標でもある「どの子どもも育て方しだい」を合言葉に、一人ひとりの子どもをしっかりと受けとめ、子ども達にとって最善の利益となるような保育を提供できるよう、また、保護者にとって安心して預けて頂ける保育所となるよう取り組んできたつもりではあるが、まだまだ改善すべき点は多々感じられる。平成30年度より施行となる新保育指針に基づき、内容の充実を図りながら更なる職員の意識向上に努めていきたい。また、今後も創意工夫しながら保育にあたる一方、儉約・節約にも心がけていきたい。これからも更なる安定した保育所運営ができるよう、福祉の心を忘れることなく、自治体、保護者、地域等と密に連携を取り努力していきたい。

### 2. 児童定員及び利用

平成29年度当初は現員33名で定員40名を充足できていなかったが、途中入所の増加に伴い随時体制を整え、最終的には43名の児童を受け入れることができた。

開所時間延長保育は昨年より利用者が減少したが、保護者のニーズに応えるべく続行すべきと感じる。一方、一時預かり保育の利用者は大幅に増加、他の事業は若干利用者数に変動はあったものの、保護者・地域のニーズに応える事が出来た。今後も子育て家庭に対する支援の強化に努めていきたい。

本年度新規事業として開始した体調不良型病児保育事業は、保護者から感謝の声が多く聞かれた。今後も就労等で困っておられる家庭への更なる支援の強化を図りたい。

- ★ 延長保育利用者延人数・・・・・・・・・・330名
- ★ 休日保育利用者延人数・・・・・・・・・・70名
- ★ 一時預かり保育利用者延人数・・・・・・・・247名
- ★ ミニ学童保育利用者延人数・・・・・・・・680名
- ★ 体調不良型病児保育利用者延人数・・・・71名

### 3. 職員配置

平成29年度は、途中入所児童があり、職員のクラス移動を行い対応した。  
園長1名・主任保育士1名・保育士6名・パート保育士4名・保育補助2名・  
調理員1名・准看護師1名・事務職員1名・運転手1名の計15名の構成で運営した。

職員中途採用・パート保育士等（3名）

職員退職 ・調理員（1名）

### 4. 運 営

#### ① 保育

日中長時間保育園で過ごす子ども達が安心して快適に生活できるようにより良い環境作りを心がけ、事故防止を念頭に置き、個々の子どもとの関わりを大切にしながら信頼関係を構築できるように保育に当った。また、28年度から導入した漢字絵本を基に静の時間、体育・音体教育を基とした動の時間を設け、計画に基づき、季節に応じた活動のバランス、年齢・個々の発達に合わせた保育が展開できたように思う。

保護者支援においては、連絡帳、個人面談等で家庭との連携を密に取りながら、お互い協力しながら、子ども達の健やかな成長へと結び付けられるよう心がけた。

#### ② 給食・食育

毎年、食中毒の発生・警報が報じられる中、事故もなく1年間無事に給食を提供できた。保育室と密な連携を取りながら個々の状態を把握し、嗜好品・残菜に配慮し、バランスのとれた献立作成を心かけた。食の環境は決して良好とは言えない状況の中、基本一汁二菜の昼食は食事のマナーを身につける上でも良かったと思う。

食育活動では、毎月のお誕生会に行うマイおにぎり作り、野菜の栽培・収穫、クッキング等子ども達は喜んで取り組んでおり、食への関心も高まったように思う。

保護者に対しては毎月の給食便り等にて食育啓発を行っているが、保護者の関心がまちまちであり、「食」の大切さを子どものみならず保護者に対しても根気強く伝えていきたい。

#### ③ 健康・保健衛生

毎月発行の保健便りを利用し、その時期に応じた感染性疾患の症状や予防法等知らせているが、こまめに見て頂く家庭は多くないと感じた。平常も室内の換気、保育室の加湿器使用、次亜塩素酸ナトリウム使用の清拭など行っているが、実際感染性疾患が増加しそうな時期になると、感染症等の蔓延が阻止できるように、また、快適に過ごせるように緊張感をもって行った。園内で罹患者が発生した場合、玄関に罹患者数等掲示することにより、保護者に対する注意喚起となった。また、感染予防について手洗い・うがい等の自分でできる予防はこまめに指導し、随分徹底できるようになった。

#### ④ 安全対策

本年度より専門リーダー格の職員が中心となり、計画の見直しを行う話し合いの時間を設け取り組んだ。大切な命を守る防災・防犯・交通の安全教育を行う中で理解も深まり、保育者の話をしっかり聞き、指示に従って速やかに行動できるようになってきたと思う。

反省として、保育者の事前打ち合わせを行っていたにも関わらず、実際となると突発的なことが多々生じ、保育者同士、声を掛け合いながら協力し、子どもたちを無事に安全なところへ避難させることを第一に考え、これからの安全教育・訓練にあたりたい。

#### ⑤ 環境保全

毎日園内・園庭等確認し、子ども達が安全に快適に過ごせるよう配慮したつもりであるが、犬・猫等の侵入で排泄物があったり、プランターが倒れていたりで行き届かなかった面も多々あった。また、電気の消し忘れ、エアコンの温度調節、水道の閉め忘れ等もあり職員の意識、子ども達への指導も徹底できていなかったように思う。今後は反省を基に、環境保全に努めたい。

#### ⑥ 研修等

園内研修では、出張復命を基に、保育の内容に関する事・危機管理・衛生管理・発達障害等々行い、再確認とともに研修内容の共有化を図り、自己研鑽に努めた。

園外研修では、キャリアアップ研修参加、県・郡保育協会主催の研修会への参加、他の研修会へも可能な限り参加し、研鑽を深め、質の向上に結び付けられるよう努めた。